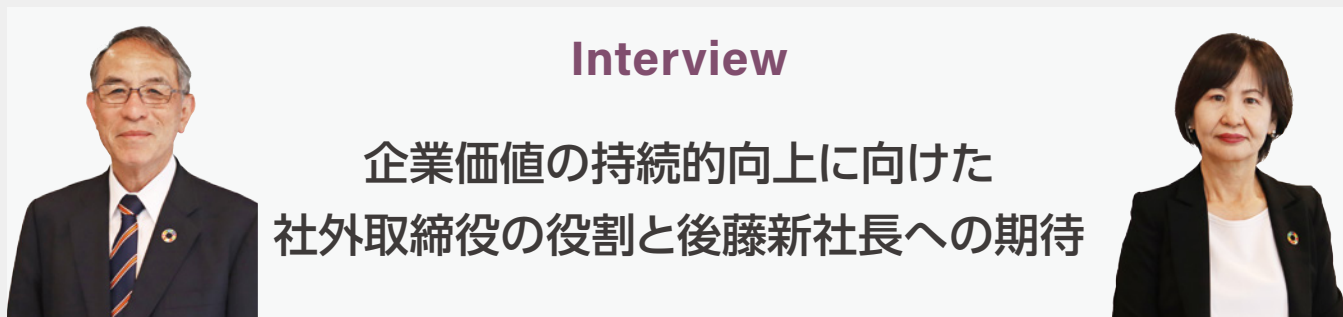


# 社外取締役インタビュー

2023年、愛知製鋼は12年ぶりの社長交代という節目を迎えました。豊富な経験と幅広い見識を有し、引き続き社外取締役を務められる安井氏、新居氏のお二人に、企業価値向上を実現するための課題や今後に期待するところを率直にお話いただきました。



社外取締役 安井 香一

社外取締役 新居 勇子

## 企業価値向上に向けた評価と課題

**新居:** 脱炭素や人的資本、知的資本等、サステナビリティ課題への投資が今後は更に重要となりますが、当社にはそのための盤石な財務基盤があります。その活用方法を具体的にどう練り上げていけるかが重要と考えています。

**安井:** 私も同様の認識です。保有する資本をいかに効率よく活用し、「稼ぐ力」を最大限に高めることができるかが求められています。すでに取り組んでいる基幹事業の鋼材・鍛造品における収益構造改革と、成長市場におけるステンレスや電子部品など高機能製品の拡大を、具体的な年度計画に落とし込み、スピード感をもってやり切ることがポイントです。

**新居:** 株主や投資家への適切な情報発信も課題の1つです。当社の現状や経営戦略を丁寧に説明し、建設的な対話を重ね、業界や当社への理解を広げるとともに、ブランディング戦略や知名度向上策などにより、アイチファンを増やすことも必要です。

## 社外取締役としての役割

**新居:** 経産省・東証から社外取締役の責務や役割の発揮に関する一連の資料<sup>※1</sup>が策定・公表・配布されるなど、これまで以上に社外取締役の役割が重要視されており、私たちもしっかり責任を果たしていかなくてはなりません。

**安井:** 変化の激しい時代において持続的に成長するには事業に精通した経営陣と、そこに異なる視点をもたらす我々社外取締役による協働が欠かせません。私自身、経営の

監督や客観性の確保はもちろんですが、社内の常識に流されることなくこれまでの知見や社外からの多様な視点での議論が行われるよう心掛けています。特に当社にとって重要課題の1つであるエネルギーや環境問題に関しては、これまで以上に取締役会における議論・意思決定を通じて、積極的に関与していくつもりです。

**新居:** 社会課題の複雑化が進む現在において、企業単独で解決できることは限られています。その点では常に社会動向やニーズに目を配り、異業種と当社をつなぐ新たなビジネスの糸口を探り、社内へフィードバックするなどの点でも貢献できればと考えています。

## 後藤新社長への期待

**新居:** これまで当社を見てきて、逆風にも怯まず果敢に挑戦する文化が根付きつつあると感じています。後藤社長にはこれを土台に、素材メーカーならではの高い技術力で基幹事業のみならずスマート事業など新たなビジネスの成長を加速させ、2030年のその先の未来を示すことで社員を牽引していくことを期待しています。

**安井:** 脱炭素社会への移行や自動車産業の大変革など時代の過渡期にあり、経営の舵取りは困難を極めます。だからこそ若い感性とリーダーシップを武器に、これからも業界と社会の発展、地球環境への貢献のため、激流を乗り越えていってほしい。我々も経営の監督機能を果たしつつ、企業価値向上に向けて、後藤社長を後押ししていきます。

※1「社外取締役の在り方に関する実務指針」(2020年6月策定)  
「社外取締役向け研修・トレーニングの活用の8つのポイント」(2023年6月策定)  
「社外取締役向けケーススタディ集」(2023年6月策定)